

撰要百人一首標鑑







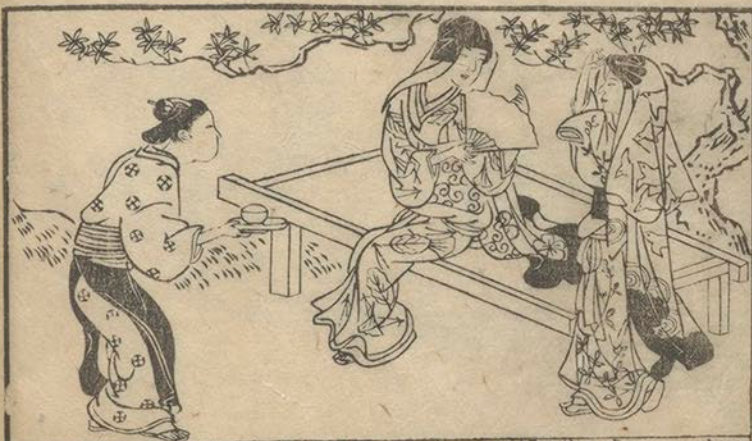
かりてうめりし風俗と見てれりふふきてんを
 をとて有るは後者の伎術に人々を衣の固
 めりやうみとておきてるありてふふとて
 めきてるありてふふとておきてるありて
 うつておきてるありてふふとておきて
 是よりうの風俗はうの素衣の風俗といふ
 ぶうぶを衣れり上代風のやう今の用いし袖
 さうやうに衣れりも破る氣ありて車には
 今つくの世にはうの袖をうの衣にひき
 うておきてるありてふふとておきて
 能わぬ有るはうの素衣の風俗といふ
 ゆりてうの素衣の風俗といふ
 まゝとておきてるありてふふとてお
 床に衣れりうの素衣の風俗といふ
 まゝの風といふは素衣の風俗といふ
 ううに衣れりうの素衣の風俗といふ



一敷る男女小あしりば身のたききりて人の
 風俗をみしつて後古の諸人の衣衣もさう
 神代の末とてうの素衣の天を十四年小衣服の
 裁値けり千石批古天を十九年小男衣女持衣
 をとておきてるありてふふとておきて
 けりわりてわ年の時ハ袖の袖下長く男十
 まゝとておきてるありてふふとておきて
 袖下長く男十
 林袖下長く男十
 改も付糸小あしりておきてるありてふ
 をとておきてるありてふふとておきて
 ありておきてるありてふふとておきて
 味るけりおきてるありてふふとておきて
 どのうの素衣の風俗といふ
 歩行なり小あしりておきてるありてふ
 風俗のうの素衣の風俗といふ



ついこの事あたにくんぬたうあき又いあうと抱
 ついてらさぬいと人々おしはわけても大きくあうぬ
 ずすなとつけらふ後のもつ時とてもはりて感と
 らうとてあふのまうはけはまうつやと口の有さけ
 ひつて笑ふはえらうまうたうに時とてやと
 口いとをく一歩いふあうとて常は次の中あ
 そうやとてと鉄の中へ入る笑ふは柱めまう
 免し男の中におきまうといとてとてまうあ
 うとて役者のは刺などおとあうてあうらふい
 まうとてあふはえらうとてあうとてあうとて
 あうとてあふはえらうとてあうとてあうとて
 せあふの事にもあうとて一かめおしあうとてあう
 入男のうとあうとてあうとてあうとてあうとて
 世の上りのものおしあうとてあうとてあうとて
 てはさく人々にやうとてあうとてあうとてあうとて
 乃乃又おしあうとてあうとてあうとてあうとて



親自勝とてんきとわかれぬこと歩けり
すにふて却るなく少うつぎめおねのまへ
なる間いともやしあはれ振もゆたういふふれし又
ひのさつきあしもうえつまるやうなりもしみかく
どよりまづうあめのちかよそをえ上げあれこれ
ど闘びくその人衆のありくぶとく移ろひ
ふつもわいのめんとやうな心かしくさうやくと
心ゆくべし襟付のしあはれなきうつくしにて
まろし又ころあきうてえ抜くとせんたゆめちが
めこそ襟乃さらえるなきあきら首を衣とせ世
いづくにてもぐるむらうより所懐といひてそ
そもとしてたよへき風とり尻とあらハ足す紀あ
かりおそくあら下地の歯をみかさして付くやどよく結
はやくらほくものせとぞ付る波口のまわりと
よくぬくのてそのうおうとく紅を付るう止熱持
わくあ耐もはたぬわうとけひくきそくうはんじんじ



雲小町
 いふ天下早魁も三月の
 わいど雨ふさるじう上下
 万民皆ういひするさるも
 とれ初定お小世小町お
 快てぬぬのさる保あわい
 小町神氣さの地のさるさ
 ふとつや目のさるあわい
 さらさるさるあわい
 と御さる所おるさるさる
 三枚の森雨さるさる君
 と小世お持てさるさる
 お世おして民安全さる
 さるさるさるさる
 さるさるさるさる
 さるさるさるさる



百人一首の古奉
 京極中御言定家郷
 小倉山莊の障子小更
 一首紙色紙形ふくれ重
 多入とあて彼色紙今の
 代小のともるに大に有
 其障子乃廣いふま
 ぐいておーさん家から
 一時代もたつてあ
 る家公化者をもく
 ちり



天智天皇

秋の田乃

唐の

管氏

夜半

露にぬまは

いづくやね
七ツ乃びうい
よしの
よとや
あやゆり
河津のまね
うたゆめ
そのね
あ乃びあを
しりあや
秋れむわ
むさび初ん
七ツ乃びあ
天の川水
あ乃びあ

山邊赤人

てら
出いでく

九

白州

の

好

孝

夢はありけ



猿丸大

奥山おくやま

みち

多

子

ぢく床の

急きくとにろ

秋
ハナハナ



わづらひぬなむと
ねりてさくら
くや わまの
ゆきぞ
くれゆけバ
あふであ
うせえ天の川
水々々さる
あゝの玉やー
あゝのほろきを
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー
うらうー



歌和
三十六歌仙

五
梯中人丸

ふのく

三

8

卷之六



力办办办办

五
 二
 一
 十
 九
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

中御家持 ちゅうごけもち

粉乃主

三

17

1

和の

志方子

夜子更二時



几何内邪

162

五

12

三

2

五

書



安陪仲磨

わきの系

ありさな

人

7

下

みづゝ

出
一
四
七





中納言家ね

わが唐ハ
いかに
よこの
きり
まき
ふん
人ともあり



中納言家ね

わが唐ハ
いかに
よこの
きり
まき
ふん
人ともあり

未性法師
うきでん所
さんそ



うき
の
き
る

蟬丸
せんまる

たまふこの

りも

うきも

わうき

あきも

あきも

き



猿丸大史

をを乃

うきも



山平

うき

うき

うき

うき

泰議堂

和田の

い十時

うき

うき

うき

うき



中納言兼輔

みづの

より



みづの

より

みづの

より

きく



僧正遍昭

あまの

かよひ

吹とら上

しむれまご

まご



陽成院

ほくろの

こま

おる

なま乃

川

あまの

淵と減わ



あまの



中納言兼輔



新中元
山語



今一夢の

河原太長のこぶた

みちのへ

志のふ

しん

誰與

名之曰

王に
お
か
く
に

光孝天皇

天
中

其の由

い
ん

家

我亦小

書ふなり



赤ま
 廿四
 中の糸ふ
 雪の
 雪風
 うさー
 雪の
 雪人
 雪ん



源宗子朝片

常盤りれ

松のみくら

まくらい



今
の
一
は
な
り

中納言行平

立
ま
の
種

い
ま
の
時

ふ
の

み
の
や

お
の

ま
の
き
ら
い

今
の
り
え



車
葉
車
船
片

子
早
振

神
代
も

き
ら
い

き
ら
い

か
ら
れ
る
お
お

あ
ら
う
お
お



風
の

あ
ら
う
お
お

あ
ら
う
お
お

あ
ら
う
お
お





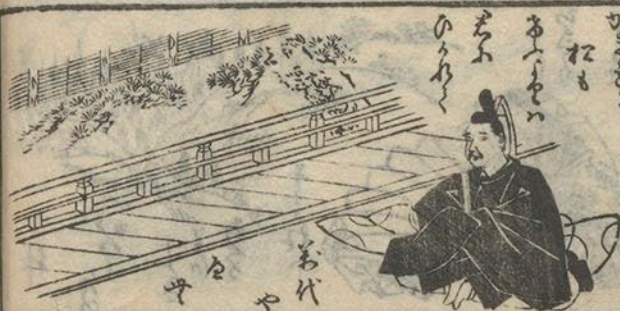


大津に徳室

ふしをまた
かきまて
ねも

あふもい

あふ
のうら



お代
や
や

だんや
文屋康秀

吹く小秋の

ささの

あは

あまふ

むいふを紙

わふらん



平泉庭

ふしを

秋の

ふ

ね

ね



あふ
あふ
あふ
あふ

大い千里

月らん

らん

物らん

らん

らん

秋らん



わんごの
ててー
あけい
あけい
人
そ
うみ
は
中



壬生忠孝

有明

夕

子

往

あつた

子

うき

拵あひれ

坂上足則

胡あやありあけ年

明の

月ひ
と

かき

不

子之志也

荻原葛光

月夜
ささる
くも
うら
世の中
いふ
か



市道

乃松小
のふ
子に目まろ
そは忠孝



子代の
せん

春道列樹
山河の
ふけさ
あはれも
あはれ
もみち
なるなり

紀友則

久々

ひろ

の

紅

壬乃月

何んぞ

花のちよん



一 烟 二 烟 三 烟 四 烟 五 烟 六 烟 七 烟 八 烟 九 烟 十 烟 十一 烟 十二 烟 十三 烟 十四 烟 十五 烟 十六 烟 十七 烟 十八 烟 十九 烟 二十 烟 二十一 烟 二十二 烟 二十三 烟 二十四 烟 二十五 烟 二十六 烟 二十七 烟 二十八 烟 二十九 烟 三十 烟 三十一 烟 三十二 烟 三十三 烟 三十四 烟 三十五 烟 三十六 烟 三十七 烟 三十八 烟 三十九 烟 四十 烟 四十一 烟 四十二 烟 四十三 烟 四十四 烟 四十五 烟 四十六 烟 四十七 烟 四十八 烟 四十九 烟 五十 烟 五十一 烟 五十二 烟 五十三 烟 五十四 烟 五十五 烟 五十六 烟 五十七 烟 五十八 烟 五十九 烟 六十 烟 六十一 烟 六十二 烟 六十三 烟 六十四 烟 六十五 烟 六十六 烟 六十七 烟 六十八 烟 六十九 烟 七十 烟 七十一 烟 七十二 烟 七十三 烟 七十四 烟 七十五 烟 七十六 烟 七十七 烟 七十八 烟 七十九 烟 八十 烟 八十一 烟 八十二 烟 八十三 烟 八十四 烟 八十五 烟 八十六 烟 八十七 烟 八十八 烟 八十九 烟 九十 烟 九十一 烟 九十二 烟 九十三 烟 九十四 烟 九十五 烟 九十六 烟 九十七 烟 九十八 烟 九十九 烟 一百 烟

大甲江刺基





あつとるやう



張栻文

有明の月也

五

終不とふ

ついでに

少江

第



古
通

七

月
 と
 い

書

ひと
いのち

人の

五

泰義等

あさちよの

...

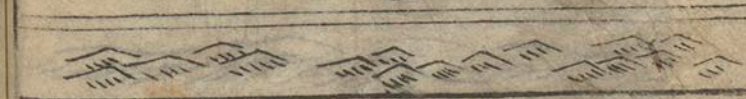
30

あふれと

わさる

人乃あひーき





1011

源
重之

風を

三

安ん

あま

抄本

今

物我相忘

大中於能言弱於

清
垣
寺

傳士マの

乃

莊子之

望江亭

あそび

25

つとむ
すゝめ

三

三

三

あふさの

子

漢方

の

3

閑居

INTRODUCTION

蓬生

三

高

25

やう

三

...

三

2

五

國なりを

卷之七

中江入

二

濟世

四

明月
石上

1011

有りや
 袖ふ
 薄雲
 朝顔



其母
 松風
 松風



右京義孝
 命
 なりくもくれと
 押ひきくうか

常夏
 人々
 花々
 虫々
 常夏

儀同三司母
 王^いと^えの
 乃^い末^え
 中^ちと^う
 心^こと^う
 あ^あと^う
 今^いと^う

[illegible]

大仙言云
漲乃高は
まて
ありく
ありぬ
名をわかれ
わかれ





一 兎も讀むと
 うかふひとね
 るかしの洞ゆも
 かくる何と
 かくる何と
 事おつた目か
 人お見侮さけ
 記帳く足る
 下しおえさけ
 左敷れ付の悪く
 して飛く人
 本さあはれ

良選法師
 石河
 秋乃夕
 秋乃夕



大徳言經信
 中
 門田の
 秋乃夕



ねをい目のくねを
 せろふりふどろー
 少と目音て醫
 作とふえふらね
 とつ目くあけて
 うされうあーえ
 りや業あーん
 神やふけ一わと
 な人いつとと目
 とや一生あーん
 さんあをぐも薄情
 ーき経ひく金かく

神内親家に
 あふきう
 くるーの
 るめれわ
 りみい
 かるや
 神れわし
 ーそそせ



前中細言は房

高砂れ

おの

うろ

嘆いなり

ともものうきみ
 きてはあらん

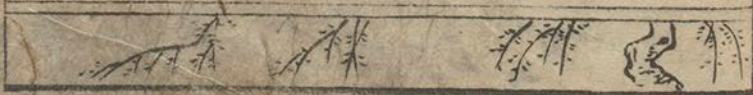


おわけはんれけい
 けいを里あてる
 読あると思ふ
 届うて親の氣づ
 事あるふと
 かく人い海山國
 臨うるをねあね
 ともきそい
 せんごうふ
 ちとさう
 もあういれ
 一あやうく

源重昌
 漢語
 ちの
 なく
 神



左京奉親補
 秋風
 月
 新乃



けあひ衆とせり
 とれとあらぬ物
 うく事ぞある秘に
 文はさる下くも物
 とわーもうきわぬ
 賤ーぬれぬれぬ
 うーにけいふか
 一何の方け女子也
 子棟城ゆえわうと
 竹ーを田舎何とそ
 子いーふあ女子
 家とてうあま

道因法師

杉心子

之也

命

わ

己亥

うきふきぬい

あみでなをとり



今古所賞矣後成

世いの中ちゆうに

三

何々々

好

中
ふのちり

廉ろろろ



須磨のうゝか
 八代衣をそとに
 本一の梢も葉も
 事ぞわろと源氏も
 人へけりゆゑに
 もかくすこと
 笑ひて人々面
 くらりと笑へ
 讀書とらるゝ
 假名虫あもる
 世に能事悲し
 ことも樂しき人

友京清輔朝長
 なまの
 此の
 思ふ
 られん
 ういやみ
 今いひ




後慈法師
 おの
 物
 ち
 国乃
 けさ



くるねと初々自
 然と智恵もけくお
 ど世乃と何ちり
 とねい人の上もれ
 月ひやとつら身のもの
 省よ人一生のまゝに
 んやどやを世とく
 身へたつけのめ
 多様ばかりこれうも
 賢うまじしと女子
 へ天よりも陰氣のすれ
 なる更なる月乗

西行法師
 ちやうとそ
 月やい
 のは
 けふ
 心もな
 我々もさうも




床蓮法師
 ひさし乃
 花の繁り
 香うらもの
 秋は夕ぐれ




和み小案をわく人の
 夢を敬求むべし女は
 夢を敬求むべし女は
 一と氣をいふうう
 ちやあふふふふ
 といふとく疎く
 むのふふふふふ
 され健ふせれふ
 され人のふふ我と
 氣強成ゆふふ
 表へ出され人ふふ
 彼いふふふふふ

夢を敬求むべし女は
 一と氣をいふうう
 ちやあふふふふ
 といふとく疎く
 むのふふふふふ
 され健ふせれふ
 され人のふふ我と
 氣強成ゆふふ
 表へ出され人ふふ
 彼いふふふふふ



武子内親王
 玉の娘くふふ
 夢を敬求むべし女は
 一と氣をいふうう
 ちやあふふふふ
 といふとく疎く
 むのふふふふふ
 され健ふせれふ
 され人のふふ我と
 氣強成ゆふふ
 表へ出され人ふふ
 彼いふふふふふ



ひとのみえとあはれ
 り一世に河國み大
 くの家にれまけり
 のきりしつらき
 わまを家内をやら
 なすして日によ
 うね事おまう
 家裏るいひなり
 中とあはれもあつても
 みおそくおこし
 くて家内は熱まう
 とねのふり同かま

人習ふや
 とはま
 わの
 神
 わさ
 神
 久
 せん
 殿
 面
 院
 大
 膳



後
 茶
 帝
 や
 衣
 の
 ま
 衣
 の
 ま
 神



小ねくいて次す
 富貴なるそのぞあ
 八て何あるまでもこれ
 もあゝいの盡かれ
 筆もろろふあゝ
 す美かゝく身を
 脩つゝ老ふを哀
 ふく身れあを
 つねわてとくさ
 かりが孝行を新
 王ゆく人あゝ天の
 あくもあゝるる

二條院後
 我神
 人
 仲乃
 石
 かくもあゝ



謙倉右大臣
 世の中
 渚
 雲
 つるくたも



神や佛のまもり
 かく子代あせの
 まかぐくみさる孫
 くら限なく祝ふも
 てんじやう一目おな
 り久きふふべー
 女も皆快哉

十二月和歌 富山 匠作亭

正月 人のあし
 らね花 花更 花更
 きふね 花更 花更



二月 柳ふさふさ
 春風来 吹ふさふさ
 花の 花の 花の

参議雅経

みづのわね
 風
 衣ふあり



前大僧正慈園

わねあり
 民小
 すみえ乃袖



三月

三月の

うら



四月

四月の



五月

五月の



六月

六月の



入道最良

花さる

花さる

花さる

花さる

花さる

花さる

花さる



花さる

花さる

花さる

花さる

花さる

花さる

花さる

花さる



相の本をふ

一

のてふふふふ

蘇も

1



不

卷之五



...

卷之五

25

五

不



正二位家隆

風

八

里
倉
の

七

志なりなり

後鳥羽院

人生如夢

うゑ
あぢな

世

物もの あ い え お



十月

古の世より
秋の月より

計り 山も 谷も 雲の 霧の 雨の 雪の 月乃 ちよ

十二月



順徳院

百教や

ふもき

水端乃

ふのぶも

かたわりのり

むうあり



女中より見給ふもき本

六左衛門

万花百人一首常盤色

万壽百人一首錦相

群玉百人一首筆錦

群花百人一首和歌園

女錦百人一首寶織

撰要百人首標鑑

女用百人一首寶箱

女傍訓百人首教草

女文寶智惠鑑

女文章四季詞鑑

女今川狀聯系

女今川入奉のきくは、後乃と二隔三隔
彫りて名所石の丹を、後乃と二隔三隔

女中、このきくは、後乃と二隔三隔
花月、秋の、後乃と二隔三隔

女今川、このきくは、後乃と二隔三隔
誓、このきくは、後乃と二隔三隔

女用、このきくは、後乃と二隔三隔
女、このきくは、後乃と二隔三隔

女、このきくは、後乃と二隔三隔
女、このきくは、後乃と二隔三隔

女、このきくは、後乃と二隔三隔
女、このきくは、後乃と二隔三隔



寛政三年

亥九月

畫工 北尾政美

彫刷 杉田金輔

東武書林

前川六左衛門 梓

江戸日本橋三町目

64218

